

公益財団法人 米沢有為会 創立130周年記念事業

地域未来を拓く若人フォーラム | n 置賜

あなたの力で
置賜の豊かな未来を探ろう!!

主催：公益社団法人 米沢有為会

共催：置賜地区高等学校校長会、米沢市教育委員会

後援：置賜総合開発協議会、米沢商工会議所、学園都市推進協議会、米沢・置賜経済人クラブ、公益財団法人
米沢上杉文化振興財団、公益財団法人近野教育振興会、米沢信用金庫、山形新聞山形放送、米沢新聞社
株式会社ニューメディア

1. 公益社団法人 米沢有為会 創立130周年 活動ビジョン

米沢有為会 地域振興部

“グローバル社会で躍動する 置賜の未来への貢献”

活動の目標

- 未来を担う置賜若人の夢を育英活動で支援します
- 置賜の教育・文化・産業等の振興に貢献します

活動5か年計画 2018～2022

活動5か年計画における重点項目

- 育英事業 ・国内外に雄飛する有為な人材の育成と同時に、特に郷土を担う有為な人材の育成に努めます
- ◇学生寮◇ 学生寮(東京・仙台の興譲館寮)の施設整備を進め、勉学環境の向上を図ります
 - ◇奨学金◇ 新たに減免型(返済減免も含む)を加え、従来の貸与型と共に充実を図ります

- 地域振興事業 ・自治体や地域の諸活動と連携・協働して、活力ある地域づくりに貢献します

- ◇表彰◇ 教育・文化・産業等の分野で顕著な業績ある個人・団体・企業等の表彰、小・中・高の スポーツ・文化活動等で活躍した生徒の表彰、高等学校卒業生の表彰を通じて、地域社会の活性化に貢献します

- ◇若人交流◇ 若人交流の場を設け、意見発表や討論等、地域社会の全体で共に置賜の未来を探る機会を提供します

- ◇文化活動◇ 文化講演会や文化大学等の活動を通じて、文化振興に貢献します。地域社会における文化諸活動との連携や協働を進めます。

- 活動基盤の充実 ～会員の交流と切磋琢磨による活動強化～

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| □会 員 | ・会員の増強(女性会員増を含む) | □会員交流 | ・ホームページ上の交流増 |
| | ・同郷会・同窓会との連携 | | ・趣味を通じ交流の多様化 |
| | ・学生寮・奨学生出身会員増 | □財務基盤 | ・財務基盤の強化 |
| □支部活動 | ・会の活動の基本単位の強化 | | ・寄付の促進(税優遇措置の活用) |
| | ・世代を超えた交流の場づくり | □広報発信 | ・ホームページの刷新拡充 |
| | ・会員交流の場としての活性化 | □事務局 | ・事務局体性の整備 |

- ◆我妻栄記念館◆ ・民法学者我妻栄先生の生家を記念館として維持し、大先達の偉業を伝えます
- ・地域振興に資する教育・文化諸活動の拠点として、記念館を活かします

- 学生寮の勉学環境の向上
- 奨学金制度の充実、特に給付型の創設
- 若人交流と置賜定着の推進
- 女子の社会進出への寄与
- 地域振興への貢献
- 我妻栄記念館を文化活動の拠点に
- 自治体・地域関係団体との連携強化
- 創立130周年記念事業・募金活動
- 会員の増強と交流の活性化
- 財務基盤の強化・寄付の促進
- ホームページによる発信・交流の強化
- 事務局体制の整備

創立130周年記念事業・募金活動(2019新春から活動開始予定)

・平成31年に迎える創立130周年の記念事業・募金活動を通じて、この活動ビジョンの実現を目指します

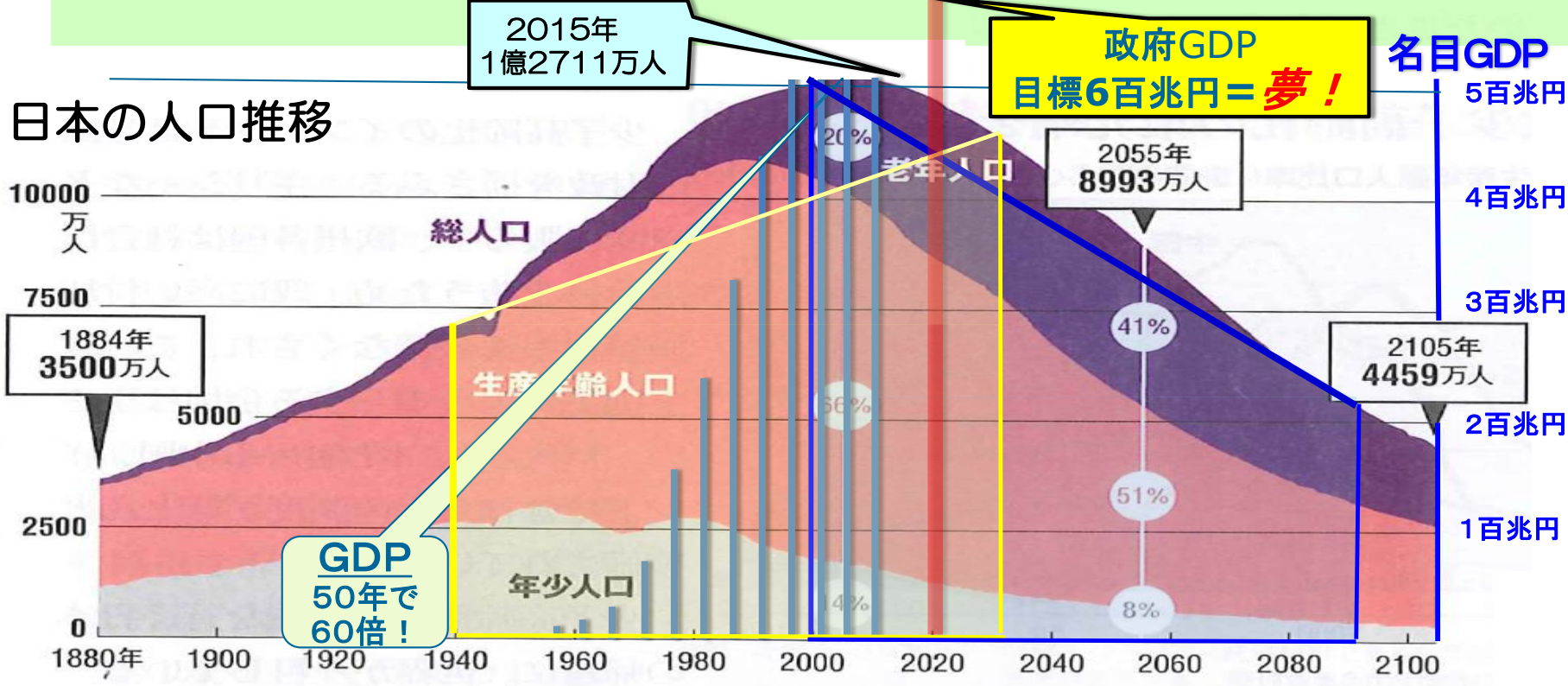
2.現代の歴史上のポジション～次世代への重過ぎる課題～

- 一八九四 日清戦争
- 一九〇四 日露戦争
- 一九一四 第一次世界大戦
- 一九二四 関東大震災
- 一九三一 世界恐慌
- 一九四五 対日講和条約
- 一九四一 第二次世界大戦
- 一九六四 東京オリンピック
- 一九七〇 大阪万博
- 一九七三 石油ショック
- 一九七五 ニクソンショック
- 一九八三 東北・上越新幹線
- 一九八五 プラザ合意
- 一九八八 昭和天皇崩御
- 一九九一 阪神淡路大震災
- 一九九三 山形新幹線営業
- 一九九五 リーマンショック
- 二〇〇一 同時多発テロ
- 二〇一〇 東日本大震災
- 二〇二〇 東京オリンピック

- ・人口減少
- ・少子高齢化
- ・世界一の財政債務
- ・自然災害多発
- ・エネルギー問題・地球温暖化
- ・産業力弱体化・貿易収支赤字
- ・こじれた中韓両国との関係等々
- ・地域はさらに深刻
- ・国内市場縮小
- ・日本の優位性劣化

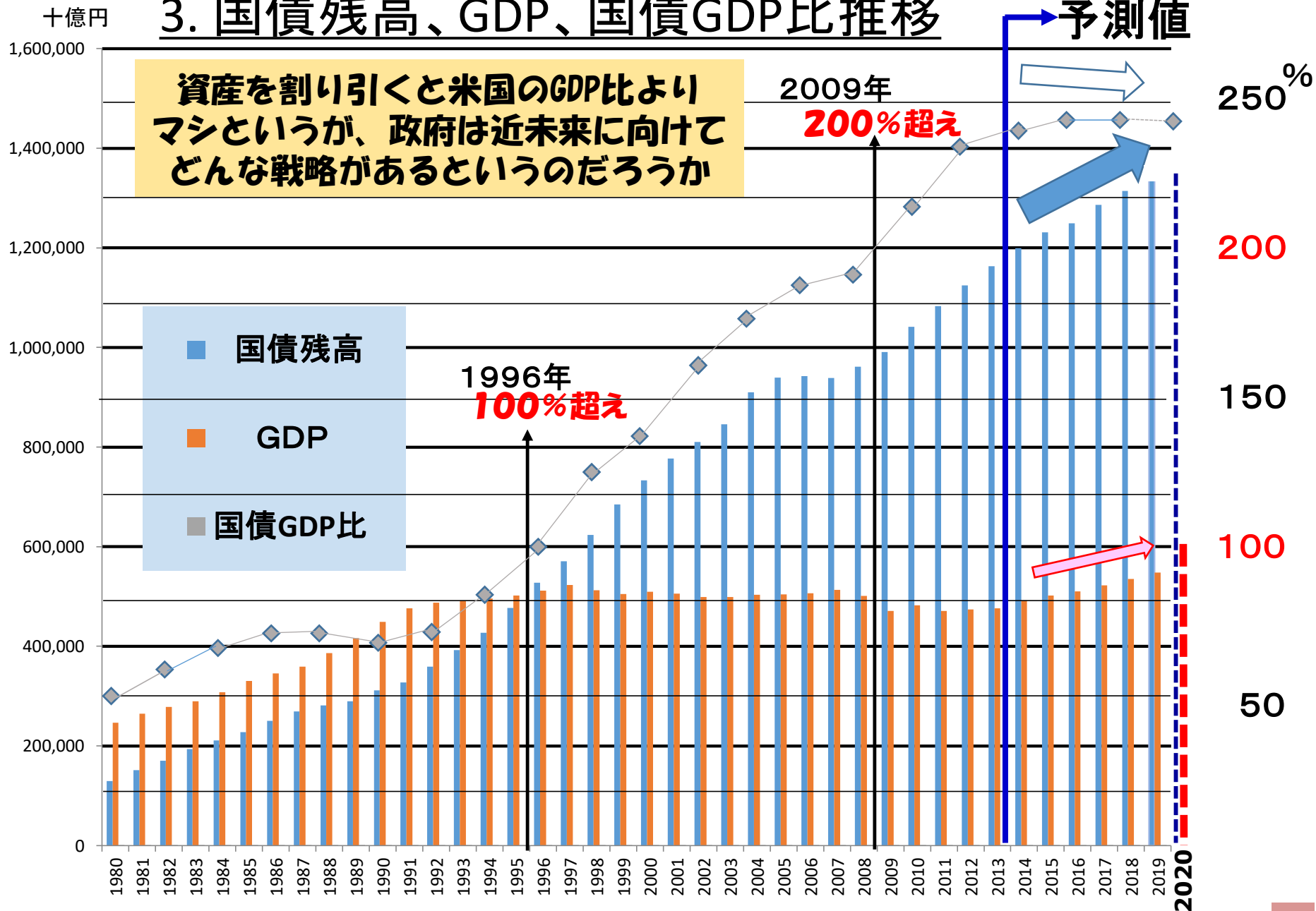
地域の未来を拓く
発想と挑戦が必須

日本の人口推移



出所：総務省「国勢調査」「推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

3. 国債残高、GDP、国債GDP比推移



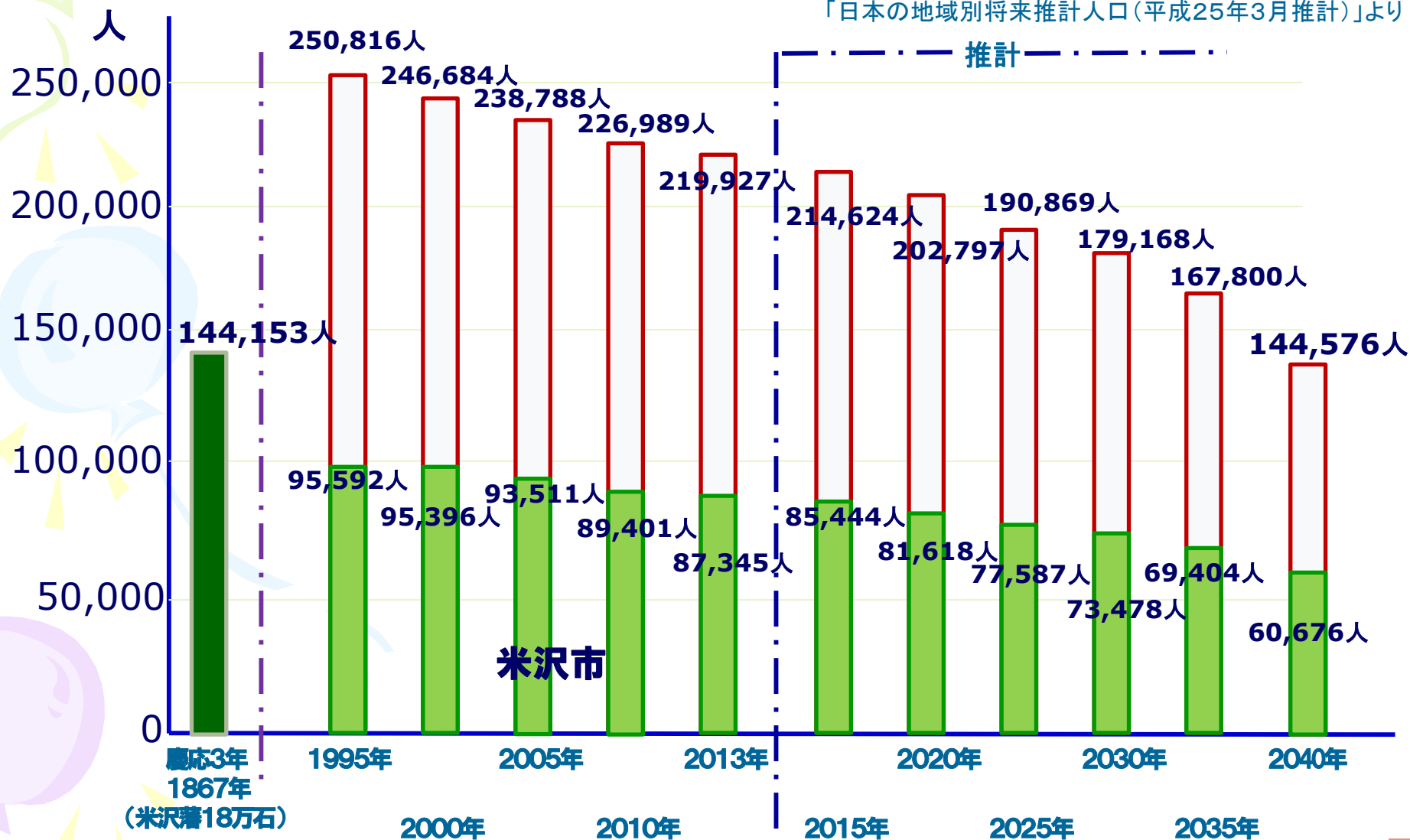
4. 置賜地域の人口推移

総務省統計局「国勢調査」

(平成7年、平成12年、平成17年、平成22年調査)

国立社会保障・人口問題研究所

「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」より



5. 米沢改革の系譜と資源

鷹山公の改革

* 改革の制約と阻害要件

・大藩意識

- 強い守旧意識、外部者疎外
- 極端な財政難でも危機意識なし

・厳しい自然環境

- 豪雪のインパクト
- 四方山岳に囲まれた閉鎖性

* 改革のプロセス

・トップとして不退転の決意

- 受けつぎて国のつかさの身となれば…
- …大倭約相行中興仕度祈願仕候決断若於相怠忽可蒙神罰者也

・教育と意識改革

- 自らの勉学(細井平州に師事)
- 先ずは旧習廃し自ら率先節約
- 民意聞いて守旧派処断
- 人材登用、身分を問わず教育奨励
- 武家も勤労

・殖産振興と財政立直し

- 匠の人材招聘
- 織物等加工品生産奨励、税收増
- 食の安定策、非常時対策、かてもの
- 付加価値農産品の奨励

* 受け継がれた鷹山公

スピリット

- 勉学奨励
- 自らを修める心、敬師の心
- 節約
- 治世の心構え…伝国の辞
- 困難に立ち向かい改革を全う

先駆者と改革の系譜

☆上杉茂憲公沖縄県令の治世=鷹山公の治世を沖縄で実践=

- ・政府方針に逆らいつつ沖縄人民の困窮救済、人材育成に尽力、志半ばで更迭される。私費の奨学金を残す

☆若手機業家による信用組合設立=米織の存亡の危機を打開=

- ・(信用金庫の前身、有限責任米沢織物製造信用販売購買組合)大正末期の米織存亡の危機にあたり、買継商の倒産が相次ぐ中で資金調達と売買機能が麻痺。その際若手機業家を中心に産業組合法に基づく信用組合を設立して窮状を打開した

☆秦逸三博士による人造絹糸発明と製造=日本初の産学連携=

- ・米沢高専教師時代、人造絹糸ビスコースを開発中、鈴木商店金子直吉に研究費を出して貰い、さらに事業化に踏み切らせる。これが後の帝国人絹となった

☆吉池市政、米沢発展への挑戦=中核工業団地第一号誘致=

- ・高度成長期を背景に後進性脱却を目指し、電算機による行政事務の改善、金池地区への市庁舎移転、栗子ハイウェイの開通など枚挙に暇がない。中でも八幡原工業団地の設置と企業誘致は、その後の米沢ものづくり産業の基盤となり、顕著な人口減にも歯止めをかけた。オイルショックの影響もあり、再建団体という負債は残したが、積極果敢な市政がなかったら現在の米沢はない

☆NEC米沢の挑戦=日本初のノート型のパソコン開發生産=

- ・NEC米沢の前身、米沢製作所はオイルショック後経営難に陥り、NECの100%子会社となった。しかし仕事はなく、自ら製品を開発してNECに売込む。デスクトップPC時代に初期ノートPCを開発して提案。その後、東芝がダイナブックを発売するや、超短期開発でノートPCを市場に送りシェア回復。技術開発力を持つ生産会社として評価され、生産基地統合が進む中、先行3社を差置き、技術開発力が買われてNEC唯一のPC開發生産基地として残る。東北の工業出荷額2~4位の原動力となっている

☆城戸淳二博士による有機EL開発研究=EL/ブルー構想に挑戦=

- ・省電力の有機ELを世界に先駆けて開発研究し、その応用研究でトップを走る。この研究を核として、卓越研究者を集め有機エレクトロニクス研究センターが設置される

☆上杉家ご当主上杉邦憲様の“はやぶさ”=7年目、奇跡の帰還=

- ・宇宙航空研究所教授時代上杉邦憲様は“はやぶさ”打ち上げを指揮、帰還を待たず定年を迎え退職された。オーストラリアの大地に“はやぶさ”を流れる涙の中に迎えた

郷土が生んだ3人の日銀総裁



結城豊太郎



池田成彬



宇佐美 洵

米沢・置賜の資源

<稀有の歴史資源>

- ・伊達政宗・支倉常長生誕地
- ・直江兼続の街づくり
- ・名門上杉家(米沢藩)の所領
- ・鷹山公改革のスピリットと貴重な治績
- ・豊富な人材輩出
 - 海軍、学者、事業家、金融人(3人の日銀総裁)

<新旧混淆の産業資源>

- ・米沢織の産地
 - 最北端の産地(一貫生産)
 - 人絹発祥の地
- ・山大工学部、栄養大の存在
 - 産学官金連携力
 - 有機エレクトロニクス開発
- ・八幡原中核工業団地
- ・オフィス・アルカディア
 - 電子機械産業集積

<豊かな自然と風土、秀逸な歴史と食>

- ・豊かで美しい自然、出湯と食
 - 吾妻連峰、飯豊連邦、天元台、吾妻八湯、赤湯
- ・米沢牛、雪菜等地域野菜
- ・歴史の宝庫
 - 名門上杉家に関する史跡と至玉の名宝
- ・伊達正宗、直江兼続、前田慶次、上杉鷹山、支倉常長、吉良家との関係

6. こんなに違う！ 日本の教育／世界の教育

日本式

- 穴埋めや選択式のテスト問題が多い。
- 正解はいつも一つ。
- 記憶力偏重。
- 先生が教壇に立って、一方的に教えるスタイル。

アメリカ・フランス式

- 穴埋めや選択式のテスト問題は少ない。
- 正解は決して一つではない。
- 答えを暗記することよりも、問題を解くための枠組みや理論を学ぶ。
- 先生が教えるばかりではない。
- 学生同士が対話や議論を通じて結論を発展させていくスタイル

モノ不足でモノづくり企業が発展する時代はこの「日本式」でも十分だった。

しかし、先の見えない時代となり、見えないニーズに応える社会では「アメリカ・フランス式」で学ばないと世界の動き、人々の動きを読み取り、考える力が湧いてこない。

探究型教育のさらなる充実が課題！

7. 若者が地元で活躍したいと考える地域づくり、 街づくりに向けて

☆データから見えて来る当地域の現実

- ・人口減少の加速…10年間で7.7%、7,225人減少 '45は57,700人へ
- ・経済活動の縮小…粗付加価値額558億円、小売販売額79億円減少
- ・住みよさの後退…全国都市ランキング243位→596位へ
因みに長井市405位→**312位**、南陽市375位→678位

☆これからどんな問題が起きるのか

- ・10年間に1万人減少→1年に1千人→空家増加、税収減
事業所数減少→H13 5,633 → H28 4,504
- ・10年間のうちに国の財政危機表面化→地方交付税減へ
- ・庁舎・病院建設等による'20以降財政収支の見通しは大丈夫か

☆これから私たちに何ができるのだろうか

- ・産学官民共に当地方の危機感を共有し、連携できるか
- ・人口減少の一番の問題は若者の減少。歯止めができるか
- ・地元産業の先進高度化遅れをどう挽回するか
- ・上杉の歴史文化を如何に街づくりに活かすか
- ・若者が地元で活躍したいと考える地域づくり、街づくりを

